

(様式第3号)

政務活動報告書

会派名 (会派未来ネット)

活動事項	行政視察
活動年月日	令和2年11月12日(木)
場所	若桜町 八頭町 隼Lab. 株式会社 城洋
活動の相手	同上
参加議員名	上田孝春、椋田昇一、長坂則翁、勝田鮮二、秋山智博、米村京子
目的・内容 ・結果等	別紙報告書のとおり
関連する 支出伝票番号	45・46・47

視 察 報 告 書

令和2年11月26日(木)

鳥取市議会議長 山田延孝 殿

鳥取市議会 会派「未来ネット」
勝田鮮二

令和2年 11月12日(木) 鳥取市議会 会派「未来ネット」の管内視察
会長 上田孝春・幹事長 椋田昇一・政調会長 長坂則翁・会計 勝田鮮二・
秋山智博・米村京子が参加しましたので、その結果を下記のとおり報告します。

記

【所見等】

① 11月12日(木) 若桜町役場

面会者;若桜町長 矢部康樹 様、町議会議長 川上守 様
議会事務局長 下石裕美 様、説明者2名

視察項目;地域コミュニティタクシーについて

実証運行までの経緯について

人口減少や少子高齢化の進展に加え、町内を運行する交通事業者の運転手不足の深刻化等、公共交通を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。令和元年度にこの先5年を見据えた「若桜町公共交通計画」を策定。

計画内容の一つとして、ドアツードアによる移動手段を導入し、その方法として交通事業者に頼らない住民共助による体制構築を行うこと、利用者の需要や中長期的に体制維持が可能であるかのポテンシャルを図ることを目的として、地域住民で構成された任意団体による実証運行を実施することになった。

現状の課題と今後の展望

現状の課題

運転手が高齢、継続的な体制維持ができるか。

集落の道幅が狭い、平常時以外(積雪時等)の安全運転運行の可能性検討。

今後の展開

令和2年度内に運転手、利用者双方の意見の聞き取り、中長期的に継続する方法を協議

令和3年度の本格運行に向け空白地有償運送の登録を実施。



<米村京子>

本市は広範囲のため地域により、人口減少・少子高齢化・運転手不足と同じように直面し深刻です、常に議会でも公共交通の議題が上がり議論されています。若桜町の取り組みに興味があり、お伺いしました。

まず、若桜町が国土交通省へ出向き、情報を集められ、県との連携を深めていることは重要です。

本市においても、免許証返納が進む中、ドアツードアの方策を模索する必要があるのではないのでしょうか、本市で無償はハードルが高いと思いますが、各支所を中心とした、方策はできるのではないかと、希望を抱きました。

有償を含めた今後の課題等問題があるが、継続的な体制が維持できる方法を模索し、今後を期待しています。

<椋田昇一>

若桜町には現在、町中心部と鳥取市を結ぶ公共交通として、若桜鉄道・若桜線と日本交通バス・若桜線（道路運送法4条許可）がある。町内は、道路運送法79条登録の市町村運送としての「路線バス」と「区域運行」で生活交通を行っている。しかし、高齢化や山間傾斜地などの事情によって「ドアツードア」による移動手段が強く求められる状況がある。

そこで、国や県に直接働きかけて「許可登録不要モデルB（市町村が実施）」というモデル事業と県補助を実現して、今年度『わあすか』実証運行を行っている。そして令和3年度に公共交通空白地有償運送の本格運行をめざしている。

こうした背景により、町内に民間交通事業者と競合する路線がないこと、実証運行は好評であり成果を得られる見込みであることから、町内全域に拡充した若桜町の新たな公共交通体制が構築されることになるのではないかと期待できる。鳥取市では、民間交通事業者との競合など公共交通空白地有償運送の困難性をどう解決するかが大きな課題であると改めて認識したが、若桜町の取組を参考にして鳥取市モデルを見出していくべくその可能性は感じる事ができた。

<長坂則翁>

人口減少や高齢化の進展に加え、交通事業者の運転手不足の深刻化等公共交通を取り巻く環境の厳しさが増している中、改めて生活交通の重要性を認識した。

<秋山智博>

地域コミュニティータクシー「わあすか」実証運行について

町長が公共交通の確保へ向けて先頭に立ち、国（国交省）や県に働きかける中で、国交省の「許可登録不要モデルB（市町村が実施）」を参考として、利用者負担なし・すべての費用を町が負担・地域住民の任意団体に委託するなど、他にない実証実験をされている。トップのけん引で導き出された先進的な事例と受け止めた。

令和3年度の本格運用における成果と課題を大いに参考にしたいと思う。

<上田孝春>

公共交通の廃止に伴って、交通空白地域の新たな移動手段について、協議検討した結果、許可登録不要のモデルBを採用、町自らが事業主体で、空白地の解消に取り組んでおられ、ここに至るまでの苦勞が良くわかった。

<勝田鮮二>

運行主体は、吉川地区共助交通を推進する会へ若桜町が運行委託し、ドアツードアのデマンド型で週5日（月曜日～金曜日）8時～15時とし、町が任意団体に運行委託を行う形態で、道路運送上の許認可を得ない運賃無償で、実施し本年10月～来年3月末まで行う事

業。新たな地域交通体系構築支援補助金を活用され、国土交通省が定めた「高齢者の移動手段を確保するための制度・事業モデルパンフレット」の許可登録不要モデル B を使用した取り組みである。

小型乗用車を使い、若桜町吉川地区～若桜駅周辺までとし、公共交通空白地の解消事業であり、とても参照でき導入の事例と感じた。

課題；積雪対応、道幅が狭い、運転手の高齢化など有り。

② 八頭町役場

面会者； 地方創生室 川西美恵子（再任用）様 元企画課長
議会事務局 石田 様

視察項目；自動運転バスについて

高齢化が進む、地域高齢者の移動手段

バス運転手の高齢化・人手不足

運行経路が一定、バス路線の運営に関しては自動運転の効果が見込まれる SB ドライブ(株)では、自動車運転バスの総合プラットフォームを開発し、遠隔地から自動運転バスの運営管理や社内安全の見守りを実施できるようにした。実証実験の実施 9 割以上の方が、「自動運転バスが走ることに好感」を持っている。

(苦勞した点)

システム開発にかなりの時間を要した。GPS 住民への説明に配慮したスピードが法定速度の範囲内であった、他の利用者からみればスピードが遅く、渋滞を招いた。

(課題点)

本格運用に向け道路交通法などの改正が必要

信号機・踏切通過に問題があり改良を要す。

GPS を利用するが GPS の入り憎い場所での対応

システムを導入するにあたり経費にかなりの費用がかかる。



<米村京子>

今回視察してみて、かなり難問があり今すぐ取り入れることができません、しかしどんな困難があるにせよ、やってみるものの必要性を感じた。

<椋田昇一>

次世代自動運転バスシステムについて（八頭町）

町営の路線バス（8路線、運賃100円）委託料は年900万円から1400万円へ。タクシー助成は年1000万円。高齢化の進行と移動手段確保のための予算確保が町の大きな課題となっている。こうしたなか、2016年5月に八頭町はSBドライブ（株）と自動運転技術を活用したスマートモビリティサービスの事業化に向けた連携協定を締結し、その取り組みの一つとして自動運転バス走行実証実験を行った。この橋渡しには隼ラボがあったようだ。

次世代自動運転バスシステムの実現には、道路交通法の改正、積み重ねなければならぬシステム改良、システム導入のための大きな費用など諸課題をクリアする必要があるようだ。

「老人が生きる希望が湧いた」というコメントが実験後に寄せられたとお聞きした。私たちが視察したこの日は、「ホンダがレベル3の自動運転車を年度内に世界初市販」という新聞記事も報じられた。今後の推移を見守りたいと思う

<長坂則翁>

自動運転システムの本格導入に向けては、まだまだシステム改良や道路交通法の改正など課題は山積している。

<秋山智博>

八頭町がSBドライブ（株）の自動運転バス実証実験を取り入

れたきっかけが、隼ラボを通してとのこと。情報収集のために様々な形でアンテナを広くしておくことだと思った。また、実証実験に係る費用は SB ドライブ (株) が全て負担しており、本市においても特に新市域などでは同様の課題があり実証実験の可能性があれば検討すべきと思う。

課題点としては、道路交通法の改正に時間がかかる・信号機や踏切通過に改良が必要・GPS が入りにくい場所 (トンネル、山中など) への対応・システム導入や遠隔操作にかなりの費用が掛かるなどあり、まだ時間がかかる事業だと感じた。

<上田孝春>

八頭町と SB ドライブが協同連携して、自動運転バス (レベル 3) システムの実証実験を推進。郡家駅~大江の郷牧場約 7.2Km の取り組みの説明を受け、実用化に向けて投資・法改正・インフラ整備等、課題も多く、八頭町内の環境では難しいと思った。

<勝田鮮二>

高齢化が進む中、地域の高齢者等の移動手段として町営バスの運行は必要。さらに、バス運転者の高齢化や人手不足という課題があり、今後も深刻化が増す中で条件を整えば非常に有効と感じた。

SB ドライブ(株) (ソフトバンクの子会社) は、自動運転バス総合プラットフォームを開発し、遠隔地から運行管理や車内安全の見守りを実施され、この度、八頭町と連携協定 (平成 28 年 5 月 23 日) し、社会実装システムの本格的な実証実験をされたが、問題点も多くあり、期待はしたいが、まだまだ時間が必要と感じた。

課題; 道幅が狭い、後続車との関係 (時速 45km 遅く設定)、雪道走行、踏切で止まらない、道路交通法の改正が必要、GPS を利用するため入りにくい場所の対応、自動運転システムの導入や遠隔操作システム経費に多くの費用を要す。

これが解決すれば、本市の中山間地域を含め様々なエリアに導入出来ると思う。本市も検討するべきと感じた。

③隼Labについて

場所 ; 八頭町見槻中 154-2

面会者 ; 株式会社シーセブンハヤブサ 米村昇悟 様

視察項目 ; 施設の概要と取組みについて

13日隼Labが取り上げられていました、隼小学校が廃校になり八頭町から施設を借り、運営し株式会社シーセブンハヤブサ、七つの企業が出資した他民間企業です。1階はカフェ・セレクトショップ、2階3階はワークスペースとして活用、現在13社が入居しています、レンタルスペースもありイベントや教室など様々な用途に使われています。シーセブンハヤブサが掲げるミッションは、「日本の未来のモデルになる田舎をつくる」とし、行政と連携して、移住定住支援業務などに携わる他地元企業の成長をサポートできる企業「コミュニティー複合施設」です。



<米村京子>

民間企業としてスタート、地域を巻き込み独自のコンセプトで展開している活動の素晴らしいと思いました。また鳥取大丸にも進出し、隼だけにとどまることなく、未来をつくる特質した組織です。

新しい力で、発展してほしいものです。

<椋田昇一>

隼Lab. 概要と取組みについて

八頭町が旧小学校をリノベーションした隼 Lab. は、(株)シーセブンハヤブサが八頭町から施設を5年間無償で借り受けて運営している。シーセブンハヤブサは7つの企業が出資して設立した。私たちの視察には、鳥取銀行から出向しているマネージャーの米村さんが対応していただいた。シーセブンハヤブサは、「日本の未来のモデルになる田舎をつくる」をミッションに掲げている。

車を降りて歩を進めると、敷地内の駐車スペースには車が多くあった。そして、隼 Lab. (施設) まで進むとテラスやカフェには若者、この山あいの地が、平日昼間から若者で賑わっているというのが第一印象であった。施設の説明や紹介は省くが、ここは「働きに来る人」「家族や友人と一息つきに来る人」「地域の住民」、多様な世代・立場の人びとが集う「コミュニティ複合施設」であることを実感した。

無償借り受け5年後の運営はどんなになっていくのかという課題はあるが、隼 Lab. 紹介ブックにある「0歳から100歳、新しいコミュニティの場」「子育てしながら自分らしく働ける場所」「日常をつなぎ、文化をつくる“カフェ”」「多様な生き方がゆるやかに重なり合う場」「人が出会い場が育つワークスペース」、これらにわくわく感を抱いた。鳥取市の施策の参考にして生かしていきたい。

<長坂則翁>

小学校の廃校に伴い、校舎跡を活用し、多くの起業家をはじめ人材育成など取り組まれており、人口減少が進む中、移住・定住促進に貢献していることに共鳴した。

<秋山智博>

隼ラボの概要と取り組みについて

旧小学校をリノベーションして2017年12月にオープンし、働きに来る人、子ども達、家族や友達とくる方々、地域住民の方々など多様な世代・立場の人々が集うコミュニティ複合施設といわれていたとおり、平日にも関わらず1階のカフェには子育て世代の方々や、屋根のあるテラスに憩う人々、そして2・3階のワークスペースでは40社の企業の人たちが働いており、この地に多くの人たちが集っていることに驚いた。

16室のオフィスが満室となり、来年3月には敷地内にコンテナ型のオフィスを3室オープンする予定とのこと。どのような企業が応募し入居するのか注目したい。

隼ラボの運営は(株)シーセブンハヤブサ。7つの企業が出資して設立した民間企業です。その中で鳥取銀行は5%出資し社員を派遣(出向)し経営のサポートをされていた。このことも運営が上向している要因と思った。学ぶべきことはいろいろあると感じたので、さらに調査研究をしてみたい。

<上田孝春>

隼ラボは町が数億円かけてリノベーションし、地域住民を巻き込み多種多様な若者・起業家・鳥取銀行が連携し、活動を行っており、金融機関感から出向し管理運営の担当をされ、指導者の熱い思いが、成功の要因と思った。

<勝田鮮二>

私は、立ち上げから知人がいた関係で、注目していた事業モデルと思い、ポイントごとに足を運んで見ていた。7つの企業が出資して設立した民間企業、(株)シーセブンハヤブサが八頭町から施設を借り受け運営している、コミュニティー複合施設だ。

八頭町の3つの小学校が、1つに統合したことにより、2つ空き校舎となり、利活用計画の中で、3階建・耐震構造の隼小学校がソフトバンクの目に留まり、町と民間と銀行や地域が一体となり、リノベーションし、一階；カフェ・地域への貢献目的で子育てやトレーニングなどオープンスペースを確保、二階三階；起業家を中心に多様なオフィススペースに40社入居、満室状況のため、校庭に地域住民と協働して芝生化したスペースに、今後コンテナハウスを設置し起業家を募集、さらに活性化しようとされていることに驚き感動した。

全国でも、リノベーション事業の成功事例として注目、視察も多く小さな鳥取から、「日本の未来のモデルになる田舎をつくる」を合言葉に、さらに、「子育てしながら自分らしく働ける場所、日常をつなぎ文化を守る」、「多様な生き方が緩やかに重なり合う場」、ほっとす

る言葉に、これからも注目し本市の行政事業運営に活かしていきたいと感じた。

④誘致企業 山手工業団地内・・・株式会社 城洋について

場所；鳥取市河原町山手笹谷 278-2

面会者；(株)城洋 鳥取工場 広瀬 様

視察項目；会社の概要・課題について、工場内視察

兵庫県姫路市、機械部品加工（城洋鉄工所）創立：昭和40年8月、

資本金：3,600万円、

業務内容：機械部品の製造、従業員：101名

鳥取工場；2019.4月航空機部品の加工を開始、30名採用

興味深かったのが、機械部品のシリンダーでした、また

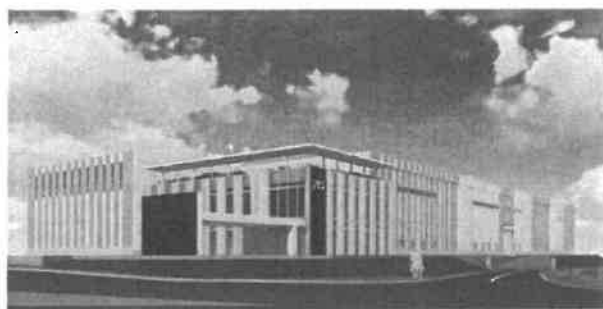
航空機部品のエンジンケース委託加工

鳥取工場進出の決め手







- ・豊富な産業支援、優秀人材の確保：鳥大や米子高専Uターン就労に期待が持てる。
- ・BCP（災害対策、リスク分散）
- ・物流の効率化及び環境整備に向けた取り組み良好。
- ・本社地区との移動距離が、約90分と利便性が良好。

地域貢献取組

- 1、環境への取り組み（太陽光発電によるハイブリッドファクトリー）
- 2、災害時の地域住民への対応【BCM】



沿革	
1969年	鳥取市山手地区に工場を建設。
1970年	第1工場を竣工し、当時の最先端設備を導入。高度技術の付加により、海外輸出も可能に。1971年、鳥取市河原町山手地区に第2工場を建設。
2012年	11月、太陽光発電設備を竣工。
2014年	航空機部品への納入を開始し、新プロジェクトとして、鳥取市河原町山手地区に第3工場を建設し、2015年4月に稼働開始。
2015年	創業45周年を記念し、厚生棟を竣工。従業員に対する福利厚生を充実。
2016年	創業50周年を記念し、従業員の家賃を補助するの記念式典を開催。
2017年	鳥取市河原町山手地区に第4工場を建設し、2017年4月に稼働開始。
2018年	鳥取市河原町山手地区に第5工場を建設。

<p>事業内容</p> <p>1 産業用機械部品 ■機械設備の部品 ■工場の保全部品</p> 	<p>事業内容</p> <p>2 環境関連部品 ■プラント関係の製品 ■水処理など公共関連</p> 	<p>事業内容</p> <p>3 HIPシリンダー ■HIPシリンダーで培った技術を多方面に拡張。 ■射出成形機、射出シリンダー、ノズル、スクリュー部品etc ■内燃機関、ターボチャージャー、ジェットノズル、ケミカル部品etc</p> 	<p>事業内容</p> <p>4 船用部品 ■軸結合用リーマホルト、プロペラ推進軸用ナットの委託加工</p>  <p>船用結合用リーマホルト</p>
<p>事業内容</p> <p>5 航空機部品 ■航空機用エンジンケース (IPCケース) などの委託加工</p> 		<p>事業内容</p> <p>6 太陽光発電 ■発電量JYSグループでトータル 20メガ発電 (建設中含む)</p> 	

<米村京子>

- ・雇用の創造：今回工場内を見学しましたが、大変な技術が必要なこと実感しました。
- ・教育体制（インターンシップ・職場体験など）：教育あつての技術
- ・産学官連携支援企業：連携あつての技術大切に鳥取発で安心できる企業が誘致できることは、雇用の上で必要です。

<椋田昇一>

(株) 城洋鳥取工場の概要と課題について

姫路市に本社がある製造業で、神戸製鋼所の協力会社である。2018年に山手工業団地に誘致し、2019年4月から航空機部品の加工を開始している。この日は工場内をご案内いただいた。会社はチタン製エンジンケースの機械加工をしているということだが、鳥取工場でもそれが行われていた。

しかし、新型コロナウイルスのパンデミックによる世界的な航空需要の落ち込みの影響を受けて、生産は半分程度ということであった。工場内には大きな機械がたくさん設置されていたが、社員の姿は少なく感じた。

鳥取工場の稼働に向けて約30人の人財を採用したということだが、鳥取工場の本格稼働、フル稼働に向けて地域雇用の更なる創出を期待したい。

<長坂則翁>

本市の誘致企業で、若者の地元雇用に貢献している。
今後とも、本市の企業誘致の重要性を痛感した。

<秋山智博>

自動車産業の次は航空機産業といわれていたので、航空機部品を製造する、この企業は本市にとって優良な誘致企業と思う。コロナ渦で航空会社の不況を受け努力されているとのこと、本市としても企業努力とともに支援していく姿勢を示すことと思った。

現在の雇用は 30 名とのこと。増員に向けての方策をともに研究していけたらと思う。

<上田孝春>

進出の理由として、優秀な人材の確保・BCP (災害対策やリスク分散)・豊富な産業支援・本社 (姫路) との移動距離が 90 分と利便性など決定要因であった。事業概要では、航空機のジェットエンジンケースや回転体部品・プレス金型・5 軸加工・超合金の切削加工が、主に行われており、現在地元採用 30 人で今後更に 30 人程度採用予定との事。今は、観光・宿泊・航空機関連がコロナで苦戦しているが、改善されれば仕事は安定成長の機種と思った。

優良な企業を誘致して良かったと感じた。

<勝田鮮二>

工場内では、大型タテ型 NC 複合機が 6 台、NC 複合ターニングや 5 軸加工機、5 面加工機など設置され航空機用ジェットエンジンケースなど製作されており、他社には出来ない技術が蓄積されていると感じた。

30 トンクラスの大型ホイストが、上部に何台も設置されており大型重量品の独自加工が可能と説明有り、完全完成には、もうしばらく時間が必要とのこと、今はコロナ禍の中、受注が心配とのことだが将来性がある企業と感じた。

研究開発や人材育成にも力を入れておられ、本市より高校・専門学校・大学生など就職して、人材流出を防ぎ定住に向け行政の協力が必要と思う。